



平成25年度 第3回 授業力向上カリキュラム・マネジメント研修

平成26年 1月31日(金)実施

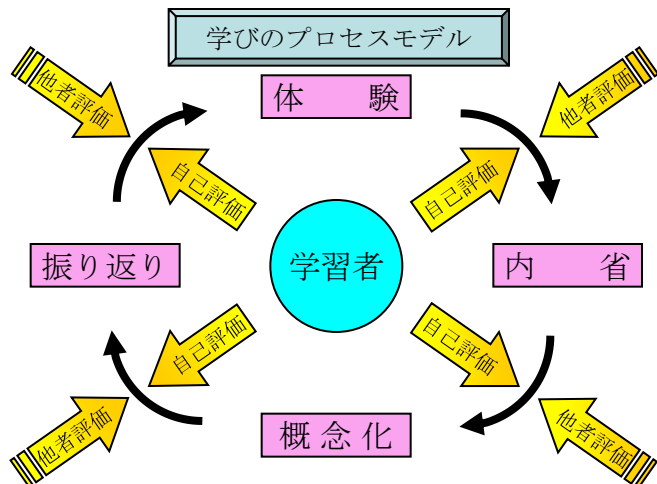
目的

- ・ カリキュラム・マネジメントの考え方について理解するとともに、ミドルリーダーとして学校教育実践を推進していく力を身に付ける。
- ・ 自校の教育課題を改善し、児童生徒の学力向上のために、学習指導要領を具体化できる授業実践力を身に付ける。

研修Ⅰ【実践交流・講義】

「授業力向上のためのカリキュラム・マネジメントについて ～概念化シートを活用して～」

講師：美馬市立江原中学校 河野 昭一 教諭



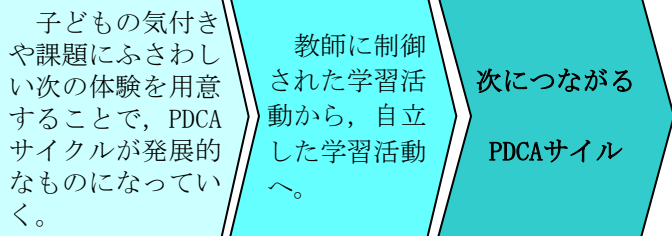
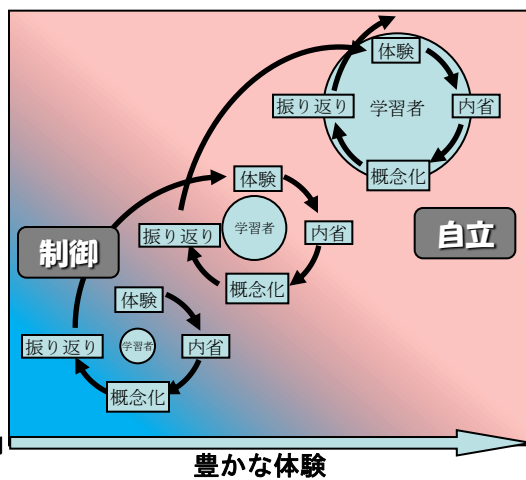
新しく学んだこと（体験）から気づきの確認、整理（内省）をする。そしてその気づきを分類し、価値付けや意味付けを行うこと（概念化）を通して、自己の成長や課題を明確にし（振り返り）、次の目標を設定する。



意識して子どもの学習活動に落とし込む必要がある。

（平成23年度から2年間、徳島県からの県外人事交流において、介良中学校で勤務）

自立



そのためには…

概念化

自らの体験を整理し、抽象化・一般化することで、他の事例に適用できるようにする。

- ・ あの時のことと重なるよ。
- ・ あの時の経験が生かせるね。
- ・ 前の時は～だったから、今度もきつと～なるんじゃないかな。

気づきを分類し、共有化して関連付けることで構造化を図る。 = 学び



学びの再構成

概念化シート

- ・ 学びの再構成を図るためのツール。
- ・ グループで活動の際に使用する。

プラス面		個人
全体	個人	
全体のよかったことの気づきや発見	個人のよかったことの気づきや発見	
全体の悪かったことの気づきや発見	個人の悪かったことの気づきや発見	
マイナス面		

気付いたことなどを付箋に書いて、KJ法で分類したものを構造化し、一般化することで次の経験に生かす。

カリキュラム・マネジメントシートを活用した実践交流

校 長 印	研 修 名	【学校教育目標】
学 校 名	学 年・教 科	【研究主題】
受講番号	氏 名	

経歴力向上カリキュラム・マネジメントシート

①【児童・生徒の発達・研鑽テーマ設定に関わって～】
【Research】

②【研究テーマ～上の研究主題に迫るために、学校組織の一員として自らの授業の中で目指す目標～】
【Plan・目標】

③【Plan・目標の全年度、計画】

④【Do：日々の教育実践】

⑤【Check・評価】

⑥【Check・評価】

⑦【Check・評価】

⑧【Check・評価】

⑨【Check・評価】

⑩【Check・評価】

⑪【Check・評価】

⑫【Check・評価】

⑬【Check・評価】

⑭【Check・評価】

⑮【Check・評価】

⑯【Check・評価】

⑰【Check・評価】

⑱【Check・評価】

⑲【Check・評価】

⑳【Check・評価】

㉑【Check・評価】

㉒【Check・評価】

㉓【Check・評価】

㉔【Check・評価】

㉕【Check・評価】

㉖【Check・評価】

㉗【Check・評価】

㉘【Check・評価】

㉙【Check・評価】

㉚【Check・評価】

㉛【Check・評価】

㉜【Check・評価】

㉝【Check・評価】

㉞【Check・評価】

㉟【Check・評価】

㊱【Check・評価】

㊲【Check・評価】

㊳【Check・評価】

㊴【Check・評価】

㊵【Check・評価】

㊶【Check・評価】

㊷【Check・評価】

㊸【Check・評価】

㊹【Check・評価】

㊺【Check・評価】

㊻【Check・評価】

㊼【Check・評価】

㊽【Check・評価】

㊾【Check・評価】

㊿【Check・評価】

学校目標の具現化を図るために、授業の中でめざす目標を記入する。

学校教育目標、研究主題を意識してリサーチし、PDCAサイクルを構築する。

⑩【次年度の課題の明確化、目標設定】

＜実践交流を通して＞

- ・ 職場は違っていても子どもに力を付けたいという同じ思いをもって実践している仲間のパワーを感じることができた。
- ・ 各校の課題に対する学校としての取組目標、学級担任専科制等による学力向上のための効果的な手立てや具体物例を教えていただき、今後に生かせる有意義な時間となった。
- ・ 多忙ではあるけれども、しっかり実態把握をし、手立てをしっかりと立て、実践をしていくことが子どもたちへの力になることを実感した。

＜カリキュラム編成の留意点＞

- 学校の主体性を発揮する必要性
- 校長のリーダーシップのもと、全教職員の協力の必要性
- 学級や学年、教科などの枠を超えた教師同士の連携協力の重要性
- 学校や生徒、地域の実態に応じた、家庭や地域の連携が図られた内容での編成

カリキュラムを
マネジメントする



- 子どもの具体的な姿がわかるような計画の練り上げ
- 教員一人ひとりのカリキュラムをマネジメントする力が必要

研修Ⅱ【講義】「ミドルリーダーに期待すること」

講師：高知市立城北中学校 松下 整 校長

学校長が求めるミドルリーダーの力とは…

- ・ 学校教育目標を具現化するために組織で対応することができる力
- ・ 教科や教科外での活動において、無駄なく同じ方向を向いて教育活動を行うことができる力



「子どものために何ができるか」提案型の学校運営に参画を！

城北中学校の取組から

＜生徒が活躍できる場の設定＞

- ・ 新年度、組織職員会での所信表明
- ・ PTA総会での発表活動
- ・ 生徒代表と教職員の合同会議
- ・ 3年生から1、2年生へ進路についてのアドバイス

リーダー性の養成
上級生に憧れる学校づくり

＜学力向上・学習習慣確立への取組＞

- ・ 研究主題「生きる力を高めるためのコミュニケーション力の育成」
- ・ はがき新聞、小社会ノートの取組
- ・ 授業の様子の取材・報道
- ・ 先進校への派遣、研修

＜その他の取組＞

- ・ 開かれた学校づくりでのディスカッション
- ・ 小学生の一日入学での中学生の関わり
- ・ 部活動における部の垣根を越えた相互交流の取組

など

＜受講後の感想＞

- ・ 経験年数が長くなると新しいことに対して億劫になりがちであるが、生徒と同じように教員も成功体験を味わうことで、意識の変化も生まれやすいと思う。
- ・ 今やっていることをよりよくするための提案も、学校運営に参画していくことにつながると感じた。そのために、分かりやすく実践しやすい提案を考えていきたい。